岐阜大学図書館報

寸胴

Zun Dō

NO.65 2021 Autumn

図書館ホームページ URL: https://www.lib.gifu-u.ac.jp

目　　次

図書館はどこに向かう? ……1
岐阜大学の古典籍（5）
養老美泉はどこにある?～江戸時代の論争～ ……4
寄贈図書一覧（2021 年 1 月～6 月） ……5
感染症と図書 2021 ……6
お知らせ ……8

図書館はどこに向かう?

大藪　千穂
（図書館長）

2021 年 4 月から図書館長となり、図書館職員の皆さんに助けられながら、何とか半年が過ぎました。就任時に図書館の HP に挨拶文を書いた時は、脳天気に図書館にまつわる思い出話を書いていましたが、実際、図書館長として図書館に携わってみると、「えっ今の図書館、こんなことまでやっているの?」と驚くことが多々あります。図書館と言えば、天井まで書籍が詰まっていて、静かに学生が勉強していて、パラパラと本をめくる音のみが響いている…ものだと思っていましたが、今の大学の図書館は変革の波の中にあり、よりよい方向性を見出そうと模索していると感じています。確かに岐阜市の「みんなの森　ぎふメディアコスモス」を訪れると、これまでとは違った図書館の姿に出会えますね。

まず図書館は何をしているのか。多くの教職員はご存じだとは思いますが、恥ずかしながら私は今でも本の貸し借りのお手伝いをしてくれる所、と学生気分が抜けずにいました。東海国立大学機構になった今、図書館はかなり変わってきているので、今回は図書館がしている事、目指そうとしている事を、

今さらではありますが紹介したいと思います(ただし横文字が多いのは何とかして欲しいです)。

国立大学の図書館関係者が集う「国立大学図書館協会」では、2020 から 2025 へのビジョンとして、「知の共有」(蔵書を超えた知識や情報の共有。紙の図書等に加え、電子ジャーナルや電子ブック等の整備やオープンアクセス)、「知の創出」(新たな知を紡ぐ〈場〉の提供。「館」の壁を超えた場の拡張)、「新しい人材」(知の共有・創出のための〈人材〉の構築)を掲げています。

では岐阜大学の図書館は、実際どのようなことをしているのでしょうか。「図書館利用支援」(今後は名大とのサービス連携も物流は徐々に進む予定)と「学生図書の整備」は基本業務ですね。

それ以外について、先ほどの 3 つの視点でご紹介したいと思います。

1.「知の共有」

＊「電子媒体資料の整備」(いわゆる電子ジャーナルやデータベースの価格高騰にどう対処するかと電子書籍等の整備)

＊「機関リポジトリのコンテンツの充実」(所属研究者の知的生産物を電子的に収集・蓄積・提供するシステム)

今年度はさらに、デジタルユニバーシティ構想に沿った図書館(電子書籍等のリモート学習教材や電子的サービスの充実)を目指しています。

2.「知の創出」

＊「地域連携・社会貢献」(県図書館、東海地区相互利用、公共図書館との連絡)

＊「学術アーカイブズの運営」(大学の博物館や岐阜県博物館との連携)

今年度は、名大附属図書館との連携(「ラーニングコモンズ」機能の強化)を目指しています。

3.「新しい人材」

＊グローバル人材育成支援(語学学修、海外情報、多文化共生等の資料の充実)を企画

これらの業務の中でも、どの図書館も一番頭が痛いのが、「知の共有」の電子ジャーナル問題です。2000 年～2002 年に日本では電子ジャーナルの導入が始まったので(「寸胴」第 56 号、森田先生「新図書館戦争」)、すでに 20 年ほどが経っています。毎年高騰する契約の価格ですが、岐阜大学では、Elsevier, Wiley, Springer Nature の 3 社パッケージについて、機構として購読契約を一元化するようになりました。令和 2 年度の費用はナント約 1 億 400 万円!と予算を圧迫しています。これまでは部局で負担額を決めていましたが、議論に議論をしても中々皆が納得できずに至っていました。このため、大学教育研究に必要な経費を安定的に確保するという目的から、令和 4 年度より電子ジャーナルの費用は全学共通経費化することが決まりました。これはかなりの変化です。

関連して今後大きな波となるのが、「オープンアクセス化」です。オープンアクセスとは、論文などをインターネット上に無料で公開することで、誰もが自由に読めるようにする仕組みで、著者自身が掲載料金(APC: Article Processing Charges)を支払うというものです。現在は従来モデルとオープンアクセスモデルの両方があることから、大学は二重払いをしている状態にあります。今後は全ての雑誌や電子ジャーナルがオープンアクセスになる方向で進むと考えられます。

もう一つの図書館の新たな役目が、「知の創出」(〈場〉の提供)です。「学術アーカイブズ」(博物館)、「ラーニングコモンズ」(一緒に学べる場)、「ライブラリ・メイカースペース」(図書館でのモノづくりの場)などの図書館内部の変化と、岐阜県博物館等との外との関係です。

「ラーニングコモンズ」は、学生、教員、図書館職員等が図書館の資料を用いて、自由に学び、ディスカッションする、対話型の学習の場のことで、すでに皆さんご存じのとおり、図書館 2 階にラーニン

グコモンズA・B・Cがあり、図書館1階にも、「アカデミック・コア」と名付けられたエリアが2015年に開設しています。※1

一方「ライブラリ・メイカースペース」は、海外では「ファブ・ラボ(Fab Lab: fabrication laboratory)」と呼ばれていますが、デジタル時代の新しいものづくりができる工房です。図書館の中に、レーザー加工機や大型プリンタなどのICT機器を置くことで、学生が自由に、「アカデミック・コア」で学んだことを、モノづくりによって体験できるという場所を名大と連携して設置しようと考えています。まだ運用にはいたっていませんが、静かに黙って本を読むだけでなく、友達とワイワイ言いながら、学んだことを実現する、図書館の新たな役割になるのではないかと思います。※2

「学術アーカイブズ」は、岐阜県の地(知)の拠点として、2019年の大学創立70周年事業として、大学の知的財産を継承し繋いでいくことを目的に作られ、「アーカイブ・コア」と「アーカイブ・サテライト」から構成されています。皆さんも図書館内のガラス張りの場所に、はく製とかが飾ってある所をご存じだと思いますが、図書館内にあるのが「アーカイブ・コア」で、教育学部等の各部局等に設置され、部局と関わる植物・動物標本等を収蔵保管しているのが「アーカイブ・サテライト」です。また「学術アーカイブズ」では、その資産を「岐阜シンポジウム」との共同で公開してきています。そしてもう一つの外との関係としては、岐阜県博物館等との連携企画移動展の実施ですが、これらの管理運営と活動を支援することも今後の図書館の新たな形と言えます。

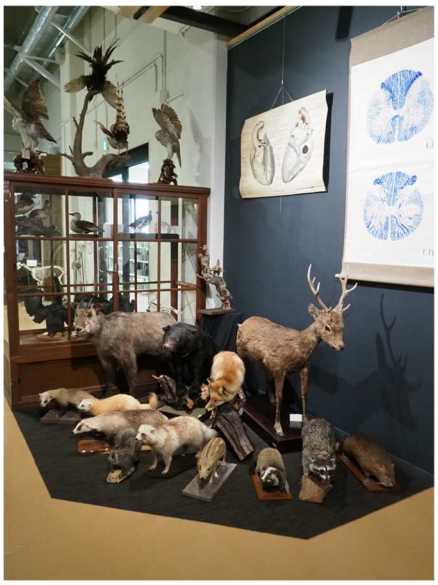
ただこのように新たな図書館の環境が整っていても、それを使う学生や教職員がそのことを認識し、うまく活用できないといけません。その時忘れてはならないのが、縁の下の力持ちである図書館の専門家である図書館職員の存在です。学生の支援や研究者のサポート、新たな事業支援など、様々な図書館業務を担ってくれている職員の方がいるからこそ、いつでも安心して勉強・研究ができるのです。これからは名大との連携も含め、「新しい人材」を構築していく必要があります。

機構として、両大学のシステムをいかに統合して、学生や地域の人に使いやすい図書館になれるかが今後の課題です。これからも図書館の基本的な役割は押さえつつ、新たな図書館へと変化する姿にご期待を! (ただし横文字は減らしたい……)

※1 図書館2階のラーニングコモンズは、新型コロナウイルス感染症への対応のため、グループでの対話等を制限している場合があります。

※2 ライブラリ・メイカースペースは、2021年9月から順次サービスを開始しています。利用方法などの詳細は、https://www.lib.gifu-u.ac.jp/guide/gulms.html でご確認ください。

(おおやぶ ちほ : 副学長・図書館長・教育学部家政教育講座 教授)



≪アーカイブ・コア≫内部の一角

アーカイブ・コアの詳細は、岐阜大学図書館HP https://www.lib.gifu-u.ac.jp/archives/#arc02 をご確認ください。

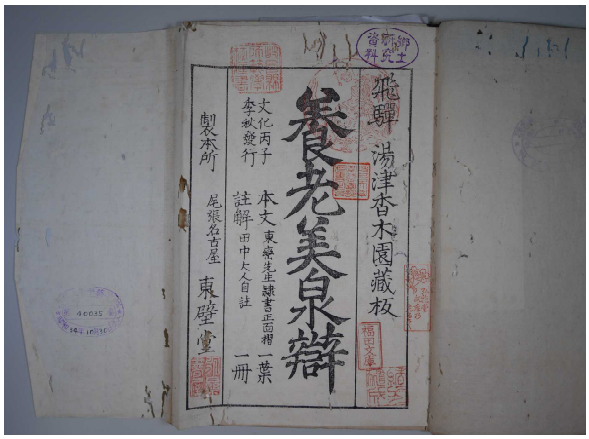
岐阜大学の古典籍（5）養老美泉はどこにある？～江戸時代の論争～

教育学部国語教育講座准教授　小川 陽子

岐阜県養老郡養老町の「養老」という地名は、霊亀３（717）年に元正天皇が当地の美泉を訪れ、この泉の水を飲めば病が治り若返る、すなわち「老いを養う」たいへんめでたい泉であるとして、元号を「養老」と改めたことに由来すると言われています。では、元正天皇が訪れた美泉とは、いったいどこのことでしょうか。養老の滝か、それとも近隣に湧く菊水泉か…この問題をめぐって、江戸時代に論争が起きました。養老の滝説を主張したのが、本連載第３，４回で取り上げた飛騨高山の国学者・田中大秀（1777～1847 年）です。対して、菊水泉説を推したのは、尾張名古屋の儒学者・秦鼎（はた かなえ）（1761～1831 年）でした。二人の論争は激しく、当地に立てられた石碑を鼎が打ち壊すなど、なかなかの騒動であったようです。なお、現在の「養老美泉弁碑」は明治時代になって再建されたものです。

大秀は、自説を『養老美泉弁註』という書物にまとめ、出版しました。江戸時代の出版は、版木に文字や絵などを彫り、それに墨を付けて紙に刷ったものを綴じ合わせて１冊の本に仕立てます。大秀の『養老美泉弁註』もそういう出版物だったわけですが、論争相手の鼎は、あろうことか、『養老美泉弁註』の版木のうち数枚を、大きく×（バツ）を描くような形で削らせてしまいました（大野政雄氏「養老美泉は滝なりとの説」〈『郷土研究　岐阜』第 25 号 1980 年３月〉）。これにより、『養老美泉弁註』は、A 版木が削られる前の版、B 版木が削られた状態で刷った版、C 削られた部分を除いて刷った版、という３種が出版されたことを大野氏が明らかにされています。

岐阜大学には２種の『養老美泉弁註』が所蔵されています。A 版木が削られる前の版（整理番号 090-57-40035）と、C 削られた部分を除いて刷った版（整理番号 388 - Tan）です。このうち A には、出版された際の袋が、本の中に綴じ込まれるような形で保存されています（右写真参照）。江戸時代の出版物の袋というのは、その本を保護するために作られた包みで、表に書名や著者名などが印刷されています。明和（1764～）・安永（～1781）ごろからは初版の場合にはほとんどの書物に付けられていたのですが、購入後に破棄されてしまうことが多く、残っている例は少ないものです（中野三敏氏『書誌学談義　江戸の板本』1995 年、岩波書店）。『養老美泉弁註』の場合も同様で、国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」（http://dbrec.nijl.ac.jp/KTG_W_62884）で画像が公開されている本はいずれも袋が見当たらず、従来の研究においてもこの本の袋が紹介された例はなかったようです。岐阜大学本はたいへん貴重なものと言えます。



そして、この岐阜大学本の袋により、『養老美泉弁註』について新たな情報が得られました。それは、この本の出版が文化 13（1816）年９月に行われたということです。次回、この点について詳しく取り上げます。

寄贈図書一覧（2021 年 1 月～6 月）

2021 年 1 月～6 月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございました。

※紹介文は著者または編者本人による

●大西 健夫（応用生物科学部）

・地球がうみだす土のはなし/ 大西健夫，龍澤彩 文 ； 西山竜平 絵 福音館書店，2021.3
【図本館 3 階大型本 613.5||Oni】

土が岩と生き物のコラボレーションからできあがっていく悠久のプロセスを丁寧に語るストーリーをつくりました。湿った土の質感や匂い、岩が風化される様子など、絵を担当した西山さんが見事に表現してくれています。

●加藤 正吾（応用生物科学部）

・レポート・図表・プレゼン作りに追われない情報リテラシー ：
大学生のためのアカデミック・スキルズ入門 ： Office アプリの Word・Excel・PowerPoint を 365 日駆使する
/ 加藤正吾著 三恵社，2021.4【図本館シラバスコーナー007.6||Kat】

専門分野にかかわらず身につけるべき情報検索手法やメールの書き方、レポートや卒業論文を作成する上で欠かせない Office アプリ（Word、Excel、PowerPoint）の使い方をまとめました。

●柴田 努（地域科学部）

・企業支配の政治経済学 ： 経営者支配の構造変化と株主配分/ 柴田努著 日本経済評論社，2020.11
【図本館 3 階 335.4||Sib】

巨大企業を支配しているのは誰か。経済の金融化は、株主、経営者、労働者の力関係をどのように変えたのか。本書では以上の論点をめぐる新自由主義時代の巨大企業の現状とその問題点について分析を行いました。

●牧 秀樹（地域科学部）

・これでも言語学 ： 中国の中の「日本語」/ 牧秀樹著 開拓社，2021.5【図本館 3 階 802.2||Mak】

本書は、中国の中に日本語のような言語を話す民族がかなりおり、その言語を観察しながら、日本語・日本人が通って来たかもしれない道を探ります。扱う言語は、カザフ語、ウイグル語、チベット語、土家語、ナシ語など。

●向井 貴彦（地域科学部）

・岐阜県の動物 ： 哺乳類・爬虫類・両生類・十脚類/ 向井貴彦［ほか］編著 岐阜新聞社，2021.1
【図本館 3 階 482.153||Gih】

岐阜県内で記録された全 123 種の野生哺乳類、爬虫類、両生類、十脚類を全て掲載した図鑑です。多数の写真や興味深いコラム、最新の知見に基づく解説で岐阜県の自然の魅力を広く知ってもらえる内容になっています。

●横山 剛（高等研究院）

・全訳 チャンドラキールティ 中観五蘊論 / チャンドラキールティ著；横山剛訳　起心書房，2021.2
【図本館 3 階 183.93||Yok】

中観論師の作でありながら仏教の基礎学として説一切有部の教理を略説するチャンドラキールティ著『中観五蘊論』は、有部教学に対する中観派の理解を伝える貴重な資料です。本書では同論の全訳を提示します。

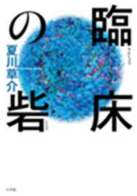
～感染症と図書 2021～

新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからず、世界中が様々な変化や困難に直面し続けています。いったいいつまでこの状態が続くのだろう、そんな不安や不便を感じていることも多いのではないでしょうか。人類はこれまでの歴史で幾度も感染症の流行を経験し、時には根絶に成功し、時には共生するための方法を探ってきました。前号に引き続き、今回は、鎌部 浩先生（工学部）、小木曽 加奈子先生（医学部）と図書館員より、感染症と社会とのかかわりについて取り扱った図書を紹介します。【】内は本学図書館の所蔵場所と分類記号です。

≪鎌部 浩先生ご推薦≫

(1)『ホット・ゾーン ：エボラ・ウイルス制圧に命を懸けた人々』
/ リチャード・プレストン著 ；高見浩訳（早川書房 2020.5）【購入準備中】

1989 年に米国ワシントン D.C.近郊で実際にあった、米国陸軍によるエボラウィルス封じ込め作戦を中心とした(物語風)ドキュメントである。2014 年から 2016 年にかけてアフリカでエボラウィルスの感染が拡大しているが、この本を読んでいると、世界的に人の流れが多い現代でパンデミックの頻度が低いことは、こうした関係者の努力によるものであると痛感させられる。



(2)『臨床の砦』　/ 夏川 草介 著（小学館 2021.4）【購入準備中】

実際に医療現場で働く医師でもある筆者が、COVID-19 の日本における第三波の頃の様子について書いた小説である。医療関係者でないものにとっては、ニュースなどだけでは理解も想像も及ばない現実があることがよくわかる。現在の第五波については、死者数はかなり少ないものの、感染者数はおよそ第三波の三倍であり、医療現場は、書籍に書かれているよりも酷い状態になっていると思われる。この本によって現状が正しく伝わり、それが感染の防止につながっていけばと思う。

≪小木曽 加奈子先生ご推薦≫

(3)『病院・施設・地域で使える　看護師のための感染対策』

/ 洪 愛子 編（中央法規出版 2021.3）【購入準備中】

「看護師ならばこれだけは」という感染対策で必須の知識や手技を学べます。感染対策は COVID-19 感染時のみならず、普段から実践することが大切です。病院での感染対策に加え、在宅、施設での対応も収載し、あらゆる場で活用できます。こちらは新人看護師や看護学生も理解しやすいように作成されていますが、感染した家族を自宅で看る場合なども参考になることが沢山あります。

(4)『永寿総合病院看護部が書いた　新型コロナウイルス感染症アウトブレイクの記録』

/ 髙野 ひろみ, 武田 聡子, 松尾 晴美 著（医学書院 2021.4）【購入準備中】

実際の COVID-19 感染による事象が紹介されています。報道では知りえなかった発熱者の増加、相次ぐスタッフの体調不良、病棟閉鎖、人員不足による業務負担の増加、そして感染への不安にある中、看護師たちがいかに感染対策を進め、情報を共有し、患者さんと家族に対応したかが分かる書籍です。COVID-19 感染は、他人ごとではありません。感染を防ぐ観点からも参考になることが沢山あります。

≪図書館員推薦≫

(5)『パンデミック下の書店と教室：考える場所のために』

/ 小笠原博毅, 福嶋聡 編(新泉社 2020.11)【図本館 3 階 024||Oga】

感染者の治療や治療法の開発など、直接的に今の事態への解決手段に携わる人々。それ以外の立場にある大多数の私達。迷いともどかしさを抱えて生活しているこの状態について、「書店と教室」という切り口で二人の著者が所感を綴る作品。割り切れない現実へ、自分の意見と選択肢を少しだけ増やしてくれるかもしれない、そんな作品でもあります。

(6)『〈増補改訂版〉　災害時の英語』

/ デイビッド・A・セイン 著 （アスク出版 2020.6)【図本館 3 階 369.3||Tha】

ただでさえパニックになる「災害」。それが異国の地にいるときに起こってしまったら…?『予期せず降りかかる災難から、あなたの周りにいる外国人の「いのちを守る」ために役立ててほしい』（まえがきより抜粋）と 2014 年に刊行された同題に、感染症に関するフレーズや情報を追加した増補改訂版。対訳と豊富な図案で、英語が苦手な方にこそお勧めしたい、英語で学べるコロナと災害への対処法が詰まった作品です。

世界中の人々の尽力で、新型コロナウイルスにもワクチンが開発され、岐阜大学でも集団接種が行われました。対面授業も再開し、いよいよ家族以外の人と過ごす時間も増えてくるかと思います。ですが、油断は禁物です。手洗い・うがい・三密回避を忘れずに、体調に気を付けて生活してください。図書館では、新型コロナウイルス関連の図書も含めた様々な情報源を取り揃え、皆さんの来館をお待ちしております。

（資料サービス係 村上詩織）

お知らせ

ライブラリ・メイカースペースについて

学習・研究・創作活動支援のため、ライブラリ・メイカースペースが新設されました。所定の手続きを行うことで、様々な機器を借りることができます。

Web 会議セット

（カメラ・スピーカーフォンなど）

動画撮影セット

（ビデオカメラ・三脚・ワイヤレスマイクロフォンなど）

超短焦点プロジェクターセット

（プロジェクター・スクリーンなど）

イベント開催支援セット

（ワイヤレスプレゼンツール・マイクなど）

利用方法・規則等の詳細は、岐阜大学図書館ホームページ　利用案内（https://www.lib.gifu-u.ac.jp/guide/gulms.html）をご確認ください。ご予約をお待ちしております。

※図書館サービスの内容は感染症の流行等により変更となる可能性があります。
最新の情報を図書館ホームページにてご確認ください。

【タイトル「寸胴」について】

図書館エントランスホールにある陶壁画「寸胴譜」（作：九谷興子 1911-1998）は、陶器の原型「寸胴」を学生や若い研究者になぞらえ、社会への飛躍をイメージした作品で、図書館報のタイトルはそこから採っています。

岐阜大学図書館報「寸胴」第 65 号　　2021 年 10 月 31 日

編集・発行　　岐阜大学図書館（学術情報課）

〒501-1193　岐阜市柳戸 1 番 1　☎058-293-2184